

○傍陽地区の概要

1 学校所在地および校区

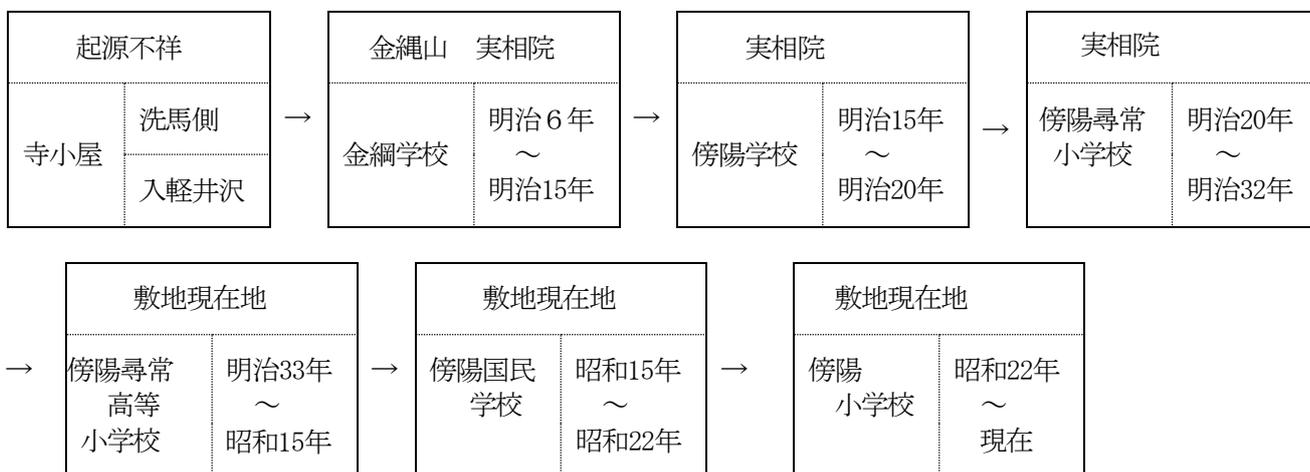
- 所在地 長野県 上田市 真田町 傍陽 6035番地1
東経 138度17分 北緯 36度27分 標高 688m
- 校区 大倉 三島平 穴沢 上横道 中横道 下横道 田中 萩 曲尾
大庭 傍陽中組 岡保 入軽井沢 (13区)
- 地形

当地区は洗馬川と傍陽川の合流地域にあり、両河川による複合扇状地であるが、洗馬川の営力の方が大きいので傍陽川を西方に押している。

曲尾はその扇端面に当たり、その南側の低い平面は神川扇状地との裾合い地である。洗馬川は横道より上流部ではV字形であるが、大良付近ではなだらかな傾斜面地帯が広い。半田入谷沢の北斜面は急な崖の連続で、川幅がそこに三島平・大倉を乗せている。

大庭から入軽井沢までの狭く長い谷平野であるが、他の谷平野に比べて段丘面上の平地が狭く、河床面が広いことが特色である。大庭は東西10m内外の段丘崖下の氾濫原の上にあり、中組・石堂は扇状地毛面上にあって、2mほどの段丘崖で氾濫原に接している。岡保は、1m内外の段丘上に立地し、氾濫原から逃れている。入軽井沢から上流部の矢坪沢の合流するにあたりは兩岸絶壁の大溪谷をなすが、その奥地に新田の小盆地がある。ここで、鳴尾沢川と傍陽川が合わさっている。

2 校名の移り変わり



3 沿革の概要

- 明治 6年 12月1日に金縄山実相院の一部を借用して金縄学校を創立する。
- 15年 傍陽小学校と改称し、中等科を設置する。
- 19年 傍陽尋常小学校となり、授業料を徴収する。村内を巡回して、生徒体操を行う。
- 34年 高等科を設け傍陽尋常高等小学校と改称し、新校舎竣工開校式を行う。
- 大正 2年 器械体操、遊動円木をとりつける。
- 14年 校庭を拡張する。
- 昭和15年 傍陽国民学校と改称する。味噌汁給食が開始される。
- 20年 東京都池袋第六国民学校の疎開児童約60名を、横道公会堂で受け入れる。
- 22年 傍陽小学校と改称し、傍陽中学校が開校される。傍陽学校PTAが発足する。
- 24年 校内放送施設が整備される。児童会・部落子ども会が発足する。授業参観日を定める。
- 26年 開校50周年を迎え記念式典を行う。給食室を整備し、学校給食を開始する。
- 31年 横道・岡保両分校を廃止する。長・傍陽・本原の三中学校を統合し、真田中学校となる。
- 42年 鉄筋本校舎、給食室、宿直室、音楽室竣工。改築記念式典を行う。
- 47年 開校100周年を迎え記念式典を行う。給食指導で文部大臣表彰を受ける。
- 平成 3年 鉄筋本校舎を全面改修する。
- 13年 パソコン教室、水洗トイレが完成する。
- 14年 木造校舎を取り壊し、特別教室の改築に入る。
- 15年 特別教室棟完成。教室の照明、暖房機を新しくする。校長住宅解体、駐車場にする。前庭の遊具を移動し、東側を駐車場とする。
- 18年 3月、市町村合併により、真田町立から上田市立傍陽小学校となる。
- 22年 8月 耐震診断により校舎改築工事（南校舎）が始まる。（外構を含め平成25年度末完成予定）